

泌尿器科学

【単位数：1単位，授業18コマ，予備2コマ（定期試験含まず）】

当該科目は医師としての臨床経験を持つ教員が担当する授業科目である。

1 科目責任者

佐々直人 教授（泌尿器科学）

2 教育目標

（1） ねらい（Ⅰ-11-b，Ⅲ-3-b，Ⅲ-4-b，Ⅲ-5-b，Ⅳ-4-b）

- ① コンピテンスの「医学知識と科学的探究心」を修得するために，泌尿器疾患の病態，検査，診断，鑑別診断，治療を論理的思考に基づいて説明できる能力を養う。また，これらの学習過程において，自ら学修目標を設定し，継続的に学び，その成果・知識を他者と共有することを通じて，「プロフェッショナリズム」の涵養を図る。
- ② 泌尿器・男性生殖器の発生，構造，機能を理解し，今後の超高齢化社会における泌尿器科の重要性（泌尿器科悪性腫瘍，尿失禁，女性泌尿器科），役割（排尿ケア，不妊症）を理解する。
- ③ 泌尿器疾患の最新の治療を理解し説明できるようにする。
- ④ 医学・医療における疑問点を見出し解決できる力を養う。

（2） 学修目標

- ① 男性，女性の尿路・泌尿器・男性生殖器の発生，正常構造，機能について述べることができる。
- ② 基本的な泌尿器科的検査（尿所見，CT，MRI画像など）の目的・意義を理解できる。
- ③ 症候より泌尿器科疾患を鑑別できるようにする。
- ④ 泌尿器科悪性腫瘍（がん），良性腫瘍の診断・検査・治療を理解する。
- ⑤ 男性における排尿の問題を理解する（前立腺肥大症，神経因性膀胱など）。
- ⑥ 女性における排尿の問題を理解する（尿失禁，骨盤臓器脱，過活動膀胱など）。
- ⑦ 若年患者（AYA世代）における泌尿器科の役割を理解する（精巣腫瘍，男性不妊症）。
- ⑧ 尿路結石の診断・検査・治療を概説できる。
- ⑨ 泌尿器科疾患で困っている患者に寄り添えるように排尿にかかわる問題を理解し，概説できるようにする。
- ⑩ 泌尿器科の最先端治療を理解し，自らの学習意欲の活力にできるようにする。

3 成績の判定・評価

（1） 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
定期試験	○	100%	多肢選択式問題を原則とする。一部記述式を含む場合がある。
態度	○	—	態度不良の場合は，総合成績から10点を限度に減点をする。

出席： 定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

（2） 合格基準

評価対象の合計が60%以上（又は60点以上）で合格とする。

（3） 再試験の方法

定期試験で60%未満の場合は，再試験を実施する。課題・レポートを課す。60%以上を合格とする。

(4) 課題（試験やレポート）へのフィードバック

定期試験の成績について、正答率が低かった問題等の総括を学内メールで案内する。

これにて理解が不十分な項目について再確認を促すとともに、定期試験で不合格となった者は再試験に備える。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
標準泌尿器科学	赤座英之	医学書院	泌尿器疾患を理解するために必要な知識を網羅的に学ぶことができる。
講義資料			

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
『Campbell's Urology (Vol. I ~ III)』	Walsch et al	Saunders	泌尿器疾患を理解するために必要な知識を網羅的に学ぶことができる。
『Clinical Urography (Vol. I ~ III)』	Dollack et al	Saunders	泌尿器疾患の臨床を理解するために必要な知識が学べる。
『General Urology』	D.Smith	Lange	上記2教科書より簡便に泌尿器科疾患を学ぶことができる。

6 準備学習（予習・復習）

- 教科書、参考図書の該当部分に目を通し、講義内容の概要を把握する(1コマあたり約1時間)。
- 1コマ目の講義で配付された資料について講義後に内容を再確認する(1コマあたり約1時間)。

7 授業計画

(1) 講義の方法

基本的に大教室での知識伝達型の講義であるが、講義中、一部、小グループ討論や講師との質疑応答を導入する。

(2) 講義の内容

泌尿器科学の基礎的知識、病態の整理と、臨床現場での癌患者の診断治療の流れを想定して講義を進める。実臨床に沿った、活かせる講義を行う。そして、泌尿器科のこれからと今、そして未来の役割、泌尿器科の魅力を理解する。